
兄と弟とボク

亮太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

兄と弟とボク

【Nコード】

N8174Y

【作者名】

亮太

【あらすじ】

ある三兄弟として生まれたボク。
名に不自由なく、過ごしていたボク。
そこそこの大学を、でて小学校の先生として働くボク。
兄弟の中で、あらゆる葛藤を抱くボク。
家族の中でうくボク。

今の現実や思いを。

三兄弟

僕は三人兄弟の次男として生まれた。

小学生の頃は、顔もそっくりということもあり、三兄弟として、巷では有名だった。名に不自由なく、ごく普通の生活だった。父は、一般のサラリーマン。三人の兄弟を養うのに、苦労はなかった。水曜日が父の休日ということもあり、小さい頃は、水曜日が楽しみでしかたなかった。なぜなら、ほしいものを買ってもらえる唯一の日だったからだ。

そんな日が懐かしく思えるのは、今、大人になってからだ。

兄

兄は、小学生の頃から憧れだった。
兄にならって野球を始めたくらいだ。

兄は高校まで順風満帆だった気がする。

しかし、高校を中退した。

理由はわからない。人間関係かなにかだろう。

理由は、わからず中退すると親ともめた時、

母を殴る兄を見た。

当然、母が殴られる姿を始めて見た。

以前から癪癢もちだった。

たかがゲームで気に入らないと、コントロールを投げている姿を幾度となく見ているからだ。

そんな兄は、三十歳にもなって、働いていない。もちろんアルバイトもだ。

僕が思うに社会不適号者だと思う。

犬の散歩に行き、親の相手をする。

そんな毎日が続いている。

働こうという意識はないのだろうか。

ともあれ、尊敬という眼差しは、いつのまにか軽蔑に変わっていた。

弟

弟は、兄とは逆でなにごとでもプラス仕事だ。そんな性格を少し羨ましく思ったりする。

小、中は、いわゆる学校の人気者であった。周りをひきつける能力があつたに違いない。ただただ羨ましかった。嫉妬したりもした。

高校になって、悪にはしつた。

バイトをしながらバイクでウロウロする。こんな毎日だった。

しかし、喫煙が見つかる。

謹慎処分と引き換えになぜか野球部になかば強制にいれられた。

それでも、めまぐるしい活躍をし新聞に載ったりした。やはり嫉妬だ。

このままうまくいくわけではない。

大学を中退したのだ。先が見えなかったのか、ただ大卒というレッテルかわほしかったのか。わからない。

一度は、某クリーニング会社に就職したが、やはり途中で辞めた。続けるという根気が見当たらぬ。

次の職が見つかってから辞めたのではない。ただ辞めたかったから、辞めたのだ。それ以外何もない。

彼もまた社会不適合者なのかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8174y/>

兄と弟とボク

2011年11月24日17時47分発行